

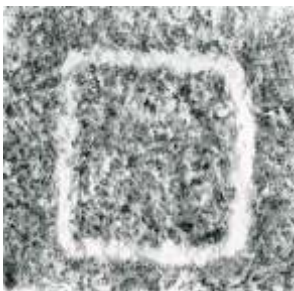
〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園4番町7-1
 TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110
<http://www.orgel-horie.or.jp/> Email info@orgel-horie.or.jp



今も庭園には、石垣用の石材が残っています。



岩に刻印が打ってあります。



刻印の拓本です。刻印は、様々な目的で使用されました。

大坂の採石場の面影を残した庭園！

堀江オルゴール博物館の庭園は、近代日本庭園の開祖である小川治兵衛の作庭と云われていますが、最近徳川氏による大坂城再築時(注1)の採石場跡であることが分かりました。庭園には、刻印石(注2)が2つと矢穴石(注3)が数石見つかっています。いずれの刻印石・矢穴石も庭園に調和して残っています。採石場が良好な状態で残っている理由として庭園を、自然地形をうまく利用して作庭されたためと考えられます。見つかった刻印は2種類で、正方形の刻印と二重正方形の刻印です。これらの刻印は、若狭小浜藩京極若狭守忠高が使用した刻印であると言われています。矢穴石は、江戸時代の初め頃の矢穴が残っており、実際に採石活動が営まれていたことがうかがえます。

採石場跡をうまく調和させ、作庭した庭園は、全国的にも非常に珍しいケースだと言えます。

西国大名たちによる石垣普請

大坂夏の陣によって豊臣の大坂城は、落城します。落城後、徳川氏は豊臣氏の大坂城の倍の規模を目指し、元和6年(1620)に再築を開始しました。石垣の普請には西国大名64家が動員されました。大名たちは、自らの財政負担で石垣用の石を採石し、運搬し石積みを行いました。採石場所は、堀江オルゴール博物館が位置する東六甲山麓(兵庫県西宮市・芦屋市域)をはじめ、瀬戸内海沿岸の島々(小豆島・犬島等)、2008年11月に新たに発見され話題となった佐賀県唐津市などで採石され、遠路、水運にて大坂まで運ばれました。まさに当時の一大土木事業でした。また公共事業として戦乱の終結による失業者増加の吸収という性格もありました。

近くの採石場

西宮市・芦屋市域には気軽に行ける採石場が多数あります。

甲山森林公園、北山公園、越木岩神社にある採石場跡は、気軽に訪れることができます。

近年でも新たな採石場が見つかっています。まだ未発見の採石場があるかもしれません。

一度、探してみてもは！？

注1:現代では大阪城と呼びますが、歴史的には大坂城と呼びますので、ここでは大坂城と統一しております。

注2:刻印を打った石を刻印石と呼びます。今までに色々な形をした刻印が見つかっており、用途もさまざまです。

注3:矢穴痕が残っている石を矢穴石と呼びます。石を割るときには、矢(くさびみたいなもの)を穴にはめこみ、矢をハンマーで叩いて石を割りました。